

「医師の学校訪問」を実施しました。

講師：筑波大学附属病院総合診療医 任 明夏先生

日時：7月9日(土)放課後(13:30~15:30)

参加者：6年次10名、5年次6名、4年次11名、3年次23名 合計50名の参加

内容：①講演「医師の仕事」

(自分とは異なる価値観を認める寛容な心で患者に寄り添うことについて
学習しました。)

②グループ学習(3, 4, 5年次)

(ロールプレイングによる体験的な学習を実施しました)

* 講演風景と生徒の感想



任先生の「幸せの形は人が違えば違うのはもちろん、同じ人でも年齢が違くと変わってくる」と言っていたのがとても印象に残りました。その一人一人の幸せを支える医師の仕事の魅力を改めて感じる事ができました。(4年)

任先生が、今医師になるまでにいろいろの経験をしているということが分かった。そのように社会で活躍している人でも夢が変わって今につながっていると知ったら自信になった。また、医師になる過程においての具体的な道筋、努力を現役大学生に質問できたのは大きな道標になった。グループディスカッションというシステムの良さが改めて分かったと思う。去年は医師の学校訪問の際に参加していなかったので、素晴らしい講演を聞けてよかった。医師と言っても色々な仕事があると言うのはよく言われたが、実際に様々な仕事を兼任されていると聞いて驚いた。患者さんの背景にも寄り添いながら、自分に対処できる範囲で関わっていきあまり干渉はしないと言うことが医師には必要なのだと思った。後半の事例に基づいて話し合いをする時には医師役をやった。患者さんの家族役の人たちの主張を聞いていく中で矛盾するものが多くて困ったが実際の現場だとよくあることなのかなと思った。また他の患者のために退院しないといけないことを伝えるのはかなり辛かった。(5年)



医師になるには、専門的な知識はもちろん、人の価値観を認められる寛容な心も大切になってくるんだとロールプレイングを通して改めて感じました。

私は、国境なき医師団に憧れを持っています。この医師たちは、海外の人たちと関わっているの
で、日本にいる時に比べて、人の価値観を認めることがより重視されるのだと思います。なので、
私も人の価値観を受け入れつつ、自分の価値観も大切にできる人になりたいと思いました。

実際に医師の先生からのお話や、医学部に進学された先輩からのお話、ロールプレイングを通し
て、医師として必要なことを色々学ぶことができました。(3年)

6年次対象 「茨城県の医師確保の取組について」説明会

日時 : 7月9日(土) (14:30~15:30)

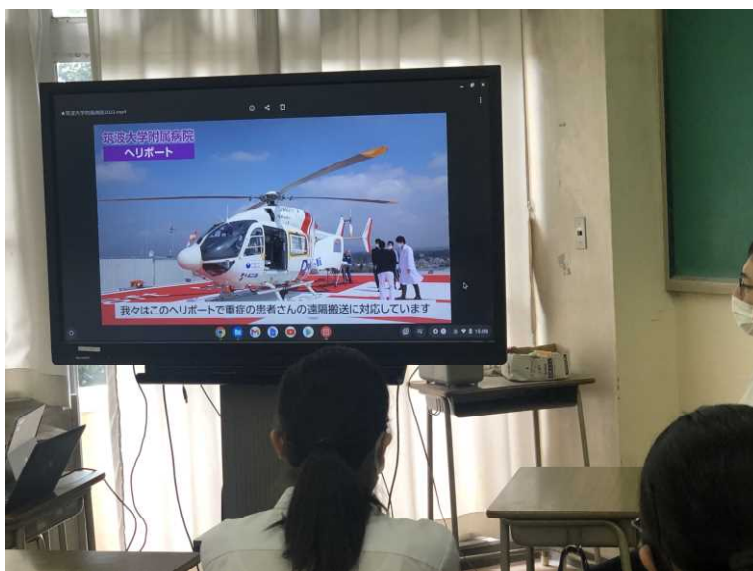
参加者: 6年次10名の参加

内容 : 茨城の医療について

医学部進学に対する支援

修学資金貸与制度、教育ローン

医学生に対する支援



<感想>

最初の講義は、医師の仕事について詳しく知る良い機会になった。知っていることも多かったが、知らないことも多々あり、受験勉強のモチベーションになった。また、後半の地域枠説明会では、地域枠といっても自分の将来を縛らない、自身の

選択を尊重してもらえるような、制度になっていることを知り、より興味を持った。どのように受験するかを考える上で、とても参考になる話を聞くことができ、参加してとても良かった。